

# たたかう女

坂手洋二

闇の中、静かに回転している球体の骨組み。

それは、ひとりでに回っている回転式のジャングルジム。

あるいは、世界じゅうに。電波を発するアンテナ。

確かにそこは、世界中のラジオ放送が交錯する空間だ。

チューニング音、ピッピッピッ……という交信音も入り混ざる。

電波ノイズが次第に空間を圧して……。

衝撃音と共に暗転。

不気味でもものしい、しかしどこか懐かしくもあるような音楽。

音楽が鎮まると、卓上のマイクに向かう一人の女の姿が浮かびあがる。

机の上には放送川の「ON AIR」と書かれたスイッチが点灯し

ており、傍らには電話機、スタンド。目覚まし時計、ターンテーブル

やテープレコーダーが置かれ、レコードやテープ等が雑然と並べられている。

傍らにはスタンドマイクがある。

ソファ、電子レンジを収納したワゴン棚、多くの衣類が吊られたス

テンダー、ピンク電話などが、周りに置かれている。

壁には唯一つのドアがある。

繰り返します。これは訓練ではありません。緊急放送です。

かなり広範囲に渡って、毒物による汚染が確認されています。

毒物は気化しており、呼吸器に入り込んだだけで人体に影響します。

この毒物が細菌なのか、化学合成物なのかは、まだ明らかになっておりません。

繰り返します。これは訓練ではありません。

かなり広範囲に渡って、毒物による汚染が確認されています。

汚染された気体を吸人すると、三十分以内に死亡します。

もしもまだ間に合うようでしたら、完全に密閉された場所に避難してください。

それができない場合は、一刻も早く汚染地域から脱出してください。

ただし、脱出される皆さん。

この汚染がどのくらいの範囲なのか、どこまで逃げれば安全なのか、それはわかりません。

市内だけなのか、幾つかの郡に広がっているのか、州全体なのか、それとも、この国はもうすっかり、この毒物に覆われてしまったのか……。

電気も電話も、まだ通じています。でも外には誰もいません。

いいえ、正確には、目の前に大勢の人がいます。大勢の人が、地面に、倒れています。何も知らなければ、まるで眠っているようにも見えます……。みんな、倒れていったんです。苦しんで、もがいて、血か何か、わからないものを吐いて……。みんな、倒れて、そのうち、動かなくなりました。私の見ている前で……。

女、震える手でタバコを啜え、火をつける。

私はこのサテライトスタジオの、ガラスに囲まれた内側にいて、助かりました。ブースにいるディレクターのジョンは、調整卓にうつ伏して、もう動きません。ブースには、換気扇があつて、ま

だ、回っています。ジョンのいる部屋も閉めきることができるはずですが、ジョンはヘビースモーカーなので、タバコ嫌いの私のために、いつも換気扇をつけてくれました……。

女、煙草の煙をゆつくりと吐き出す……、

灰皿に押しつけ火を消した煙草を捨てると、指はまた震えはじめる。

……黙っていると変になってしまいそう。どこに電話しても、誰も出ないの。

誰か聞いてたら、電話ください。番号は、

スリースリーファイブワン セブンオーワンフォー  
3 3 5 1—7 0 1 4。

いけない、それ、うちの番号。この番号は、

ファイブワンセブンワン セブンセブンナインオー セブンセブンナインオー  
5 1 7 1—7 7 9 0 ……。え、違うわ。 7 7 9 0 ……。

セブンナインセブンオー セブンナイン セブンセブン  
7 9 7 0 ……、 7 9 ……、 7 7 ……、 え、どっち……。

(妙に冷静に)

ファイブワンセブンワン セブンセブンナインオー  
5 1 7 1—7 7 9 0 ……、

ファイブワンセブンセブン セブンセブンナインオー  
5 1 7 7—7 7 9 0 ……。

ファイブワンセブンワン セブンナインセブンオー  
5 1 7 1—7 9 7 0 ……、ご面倒でも両方掛けてみてください

い。

誰からも電話がなければ……、考えられるのは……、ここから電

波が届く範囲には、私の他に生きている人間は、一人もいな

い……。

だとすれば……、だとすれば私は……、いったい誰に向かって

喋っているんでしょう。

……もしも、いま起きている恐ろしい出来事が夢で、目が覚めたら何もかも元通りになるんだったら、私、今夜限り、トニーの店で

レジの脇に積んであるチョコレート、くすねるの、やめるわ。二度としない。内緒のドラッグも。週一度のマティーニも。……マスターベーションも。

……でも神様、私はその約束を守ることができそうもありません。私に残された酸素は、この5メートル四方だけなんです。

マーガレット、クীরリッジは懺悔します。最初の失恋のとき、ええ、それから、ミス・ジョージアに補欠で受かった晩にも、いつそのこと世界が滅んでしまえばいいなんて、口走ったこと……。だって、補欠なんて発表しなきゃ、誰にも応募したこと、知られずにすんだのに。

女、手元にあるスイッチボタンの一つを押した。

古めかしい電話の音が鳴る。

一瞬の後、女、受話器を取り、以後、耳にあてがったまま、

……サム。サム。……あなたなのね。

どこ。……どこにいるの。

基地の中。他にも生存者が？

……調査？ 調査って、何よ。

どうしたの。ねえ。聞いているの。しっかり。人類最後の生き残りなんて私、いやよ。

ええ。持ってるわ。開けてみる？

女が紙袋を開けると、週刊誌と電動式のマッサージ器が入っている。

女、マッサージ器のスイッチを入れ、自分の肩に当てる。

とつても気持ちいいけど、これは何？ 真空清浄式ガスマスク。

どうしてこんなもの。サム、あなたって、いったい……。

あなたを信じてたのよ。だから嘘をついた。あなたが昨夜、私の部屋にいたって。

私、今日、誰かに尾けられてた。地下鉄のホームで誰かに押された。ひと気のない路地で。クルマに轢かれそうになった。デスクの引き出しも、引っ掻き回されてた。誰も信じてくれなかったけど、やっぱり、気のせいじゃなかった。

……いいわ。わかったわ。で、誰に渡せばいいの。

女、スイッチボタンの一つを押す。

銃声。

……サム。どうしたの。なに。今の。銃声？ ねえ、サム。

女、テープのスイッチを押す。

ラジオのチューニングつまみを回す音。

誰か。……他に誰か、いないの。

聴こえてくるのは電波のノイズのみ。

女、週刊誌のページを捲って音を立てる。

(読む) 米国空軍機密 スリーワンシックス 3・1・6。第三国によってこの兵器が使

用されたとき、報復措置として、地球上二十三カ所に仕掛けられた

わが国の環境兵器もまた、作動するであろう。

さすがだわアメリカ。あなたにしかできないことをした。

電波のノイズだけを残して、沈黙。

女、放心したように。

……素晴らしいわ。マーガレット・クーリッジの独占放送。

さよなら、サム。愛してたわ。だけど、サム、そしてアメリカ。

カ。……ギルティー。あなた方、有罪よ。

ふと、ビリビリッと、微かに電波の音。

それが重ねられてリズムになり、反復するものであることがわかる。

ツツツ、ツツツツ、ツツツ……。

モールス信号のように聞こえる。

……誰か信号を送ってるんだわ。

弱い電波だけど、誰かが聴いてたのよ、誰かが……。

女、信号を言葉に書き取る。

西海岸に、汚染されていない町がある。……シテイ・グリーン

シヨア。生存者は三千二百名。連絡を求む。

女、改めてマイクに向かい、

……こちらマンハッタン。すべての放送は終了です。

アナウンサーになるのは、私の夢だった。でも、私がやりたかったのは、地球最後の放送じゃない。

私、向かいます。シティ・グリーンシヨアに、どんな方法を使っても。

マーガレット・クリーリッジのマンハッタンの放送は終了します。

この次は、どこか別な街で、戦争と憎悪、民族や国家の対立の空しさ愚かさに気づいた人類による、最初の放送でお会いしましょう。

ドアを開ける

心臓の鼓動のような。

……彼女は歩いていく。

かつて人々の豊かな生活の舞台であった、しかし今や、誰も生きたものはいない、空白の街を。

死体が横たわり、遠くには幾筋かの黒煙が上がっている。

顔の下半分はマスクに覆われているため、その表情を正確には読みとることはできないが、行く先を真っ直ぐに見据え、彼女は歩いていく。

……彼女のほんとうのたたかいは、ここから始まる。

女、テープを掛ける。

ドドドドントツ、とエンディング調の音楽入って……。

彼女自身の声のエフェクターのかかった録音のナレーション。



N 「今夜絶滅するかもしれない惑星に生きるあなたのため  
に、……地球最終放送」

女、テープのポリウムを抑えて、

こんばんは、オサダヒロコです。毎週水曜日の夜のひととき、古今東西のファンタジック・ムービーを巡るノンストップ・トークをお楽しみください。

この番組では、ロードショー抜きで2本立て公開された映画、地方で封切られそのまま消えていった映画、日本未公開、テレビでしか放映されなかった映画、大スターの出演はなし、上映時間は九〇分以内、そういうマイナー映画、B級映画を専門で紹介しています。カルトとか、マイナーとか、いろんな言い方するけど、たぶん、つくってるほうの意識としては、たんに「B級」。なんか、変わったものつくろうとか、身構えたりしないわけ。

こういう映画ばかりなもので、最初、私、趣味に走っちゃったかなと思ってたんですけど、ええ、お陰様で、もう半年。やらせてもらってます。

今日ご紹介したのは、『地球最終放送』。ええ、この番組名の、もとになった映画です。

主演はジェニファー・ドイル。これ以外にどんな映画に出てるかまったくわからない。他のキャストも無名の俳優ばかり。俳優かどうかも怪しいですね。有名になる前のロック・ハドソンがヒロインの恋人サムと同僚役で何シーンか出てくるくらい。やっぱり危ないウイルスで死ぬ運命だったのね、ハドソン。

このジェニファー・ドイル、わりに美形に見えるときもあるんだ

けど、怒ったり驚いたりすると、顔がいったん、とまっちゃうの。今風にいうと、ちょっと危ない。二十代半ばのはずなんだけど、すごくおばさんに見えたり。で、やたらリアルなわけ。そのアナウンサーが。だから私、心配したのは、オーソン・ウェルズの『火星来襲』じゃないけど、これ、ほんとのニュースだと思う人いるんじゃないかって。……もしも言語解析機を持った宇宙人がさ、よりによってこの番組だけをたまたま聴いてたら。たいへん。あなたを助けにくるんじゃないかしら。

この映画、舞台は近未来。アメリカはたぶん朝鮮半島だと思うんだけどアジアの紛争のこじれで、一触即発、全面戦争の危機にある。しかし国民はその事実を知らされていない。東西対立の時代だから、敵国はもちろんソビエトなんでしょうね。……発端はヒロイン、メグ・クーリッジの恋人サムが細菌兵器に関する軍の機密を持ち出すところ。感づいたCIAが、彼とつるんでるかもしれないっていうんで、彼女の行動を監視するようになる。それに気づいた彼女は、自分が誰かに見られてる覗かれてるって周囲に訴えるんだけど、誰も取り合ってくれない。頼りになるのは恋人のサムだけで、彼を信じて、スパイの嫌疑を掛けられた彼を、偽のアリバイを巧使って庇うわけ。なんで信じちゃうのかなあ。このサム、いっちゃなんだけど、台詞は棒読みだし、ただ目をきらきらさせて、「僕を信じるんだ。僕がそんな人間に見えるかい」、見えるって。……B級映画のヒロインって、どうしてつてくらい馬鹿に見えること、あるでしょ。アナウンサーのメグさん、まだいい方だとは思うけど。いちおう最後まで立派に職務を果たしてるわけだから。誰も聴いてないかもしれないのねえ。「キグチコヘイは死んでもラップを離しませんでした」

……古い？ 古いつて？ はいはい、でも、これが古いつて知ってるあんたも古い！

女、自分の言い切りのタイミングでテープのボタンを押す。

コヨーテの鳴き声。

……『地球最終放送』でした。この番組の第一回目に紹介した、番組名のもとになった映画を、もう一度お送りしました。

……うん。ビデオにはなっていないんじゃないかな。

でも、見落としてるとあれよね、ビデオになると全然違う題名のとときあるじゃない。

英語題名は『ウーマン・イン・バトル』、直訳すれば「たたかう

女」ってことね。

なんか身も蓋もない。日本の配給会社のつけた『地球最終放送』の方が格調高いよね。

『地球最終放送』って、私も、いろいろその手の映画見てるけど、その映画、聞いたことないです」、これは、ええ……、カナンさんでいいのかな、許可の可に南で可南さん二十二歳のおハガキ。

やっぱり、テレビで見たって人が、多いですよ。……でも最近やらないのね、昔のSF。少なくともゴールデンタイムには。私の知る限り『ハエ男の恐怖』は、いつとき土曜映画劇場で二年に一度はやってたと思うんだけど。……『ザ・フライ』のせいよ。ああいうドロドロ人間がハエ男なんて許せない。ハエ男はやっぱり、金網みたいな目で、つるんとした顔でなきゃあ。

確かに今の目から観ると、五十年代はSFっていつてもあんまり科学的じゃない。だって、今でこそ私たちはロケットとかスペース

シャトルとか、それがどんなものか知ってるけど、まだ人類が一本のロケットも打ち上げてない段階で『宇宙戦争』って映画の美術を頼まれたら、これはたいへんよ。でしょお？

特撮にいろいろ手が込んでくると、あんまり製作費のとれない会社はたいへん。『地球最終放送』のうまいところは、こういうアンテナだけなの、SFっぽい仕掛けが。……ヒロインのサテライトスタジオには、てっぺんに最新式の超短波アンテナがついてて、その御陰でシティ・グリーンショアに連絡が取れるんだけど、そのアンテナ、町中の公園にあるみたいな、回転式のまあいいジャングルジムみたいな。

最近そういうの、ないわよね。私は公園にあるもので一番好きだったな。

なんだか私ね、くるくる回る物が好きなの。そういう玩具おもちゃ集めてた時期もあって。……この番組でそう言ったら。この半年、いろいろプレゼントしていただきました。皆さんありがとうございます。ちよつとしたコレクションになりました。独楽でしょ、回転式のヤジロベエでしょ、まあくる走るチョロQに、扇風機に竹とんぼ、とどめがその……、公園にあったジャングルジムなの。

ここにあるんです、それが。ええ、ホンモノ。

差出人も手紙もないから、どなたがくださったかわからないんですけど。

驚きましたよ、それは。鉄パイプの部品がどんどん運び込まれてくるでしょ。……とにかく組み立ててもらったんです、スタジオの中で。そしたら、思ったより大きい。いくらなんでも大きい。でも嬉しくて、ひと月遊んでました。だが、待てよ。そもそもスタジオの中にジャングルジムがあるのはへんだ。と、いいながら、またひ

と月。どこかに移そうと思いつつ、ひと月。思い切って解体しようとしたら、はめるときは簡単だったのに、もともと古いもんだから接続部分がぼろぼろになって外せない、うん、思案に暮れてひと月。……で、今もここに居座っているわけなんです。このジャングルジム。

……たまにスタジオに来る人に、これ、最新式のアンテナですよって言うと、信じる人がいるんですよ。いくらミニFMだからって、アンテナがこんなに小さいわけではないでしょ。

……関係ないけど綺麗な曲いきましよう。パーシーフェイス・オーケストラ、『夏の日の恋』。

女、レコードをかける。

煙草を出す、あと一本しかない。

女、ブース（客席方向にある）に向かって、

オオタキさーん。

悪いんだけど、煙草買ってきて。

オオタキさん。

……なんで電気消してんの。

ああ。

このあいだ言ったのはさ、恋愛映画のときのことですよ。オオタキさんと目が合うと吹いちゃうかもしれないからっていうのは。

オオタキさーん。

いないの。

ブースの電気消すとね、そっち真っ暗だからガラスが反射してさ、鏡みたいなのよね。オオタキさんと目が合うのもただけど、

自分の顔見ながらっていうのも……。  
モニター入れてないの？

別室からの電話の音。

オオタキさん？

なんか、いやね。そっちらからは見えるんですよ。マジックミラーっていうか。覗かれてるみたいな。

おーい……。

女、カップのコーヒーを飲もうとして、冷めていることに気づき、レンジに入れてスイッチを押す。

本番中は、居てよね。

女、電話のスイッチを切り替えた。

テーブルの上の電話が鳴る。

女、出る。

はい。いずみスタジオ。

もしもし。

……もしもし。

もしもし。

無言電話らしい。

女、電話を切る。

煙草を箱に戻す。

また電話が鳴る。

女、出る。

もしもし。

もしもし。

……いい加減にしてよね！

切ろうとして、はっと受話器を戻す。

……はい。

え、いや、だから。

……違うの？ 無言電話、今の。

レンジが、チンと、加熱終了を知らせる。

女、受話器を耳と肩に挟んでカップを取り出しつつ、

ああ、はい、違うならいいんです、そんな。

いや、だから謝られても……。

え。

……死にますって、なに。

なに大袈裟なこと言ってるの。

……いや、御免なさい。

そんなつもりじゃなくて、え、はい、今、本番中ですよ。  
私、はい、オサダですけど。

あ……、それ違うんです。

あれ終わったんですよ、「心の電話」。

……ミタライ先生、出せて？ そんな、番組違うんだから。  
いつのまに……、半年前じゃないんですか。  
どうして。

死にますって、どうしてそういうことになるの。

女、カップのコーヒーを飲もうとするが、熱くて難儀する。

だから、「心の電話」は終わってるの。今、水曜日この時間帯  
は、「地球最終放送」……。

最終放送っていうのは、だから、地球が滅亡して……。

……地球が滅亡するのとあなたが死ぬのは関係ないわよ。

女、テープデッキが気になる。

テープ、終わっちゃう。

いえ、こつちの話で……、終っちゃいそうだから。

だからなんでそうなるのよ。

テープの音楽。フェイド・アウトしていく。

ちよっと、待って。



待ちなさい！

女、受話器をあげたまま、マイクのスイッチを入れ。

ええ、パーシーフェイス・オーケストラで、『夏の日の恋』でした。

『夏の日の恋』つて、音楽は有名なんだけど、どんな映画か、知らない人多いのよね。

知ってる？ 知らないでしょ。

女、顔から離れたはずの受話器についつい語りかけてしまい、困惑する。

方針を変えて、

次の曲、参りましょう。

……一日じゅう街をぶらぶらしたあげく、こめかみにピストルを当てて自殺するのは、『太陽がいつぱい』でアラン・ドロンのライバルだったモーリス・ロネ。映画は、ルイ・マル監督の『鬼火』。音楽は、いろんな映画に使われています。エリック・サティの『グノシエンヌ』。

女、スイッチを操作。

テープから、ピストルの銃声。

続いて、『グノシエンヌ』。

女、受話器を耳に当てる。

……生きてる？

……あのね、わざと自殺の映画、選んだわけじゃないわよ。

……しようがないの、テープがそうなってんだから。

……出ないんだったら、切るよ。曲のあいだにハガキ、選ばなきゃいけないの。

女、受話器を置き、ハガキを捲ってみる。

(読む) お誕生日おめでとうございます。もしもあれだったら、年齢はいいですから干支だけでも。うーん……。 (ハガキを除外する)

(別なハガキを手に取り) 自閉症診断テスト？ 無作為一千名アンケート。なんでこんなもの送ってくるの。……自閉症だって。

女、煙草に手を延ばしかけて、思い出す。

オオタキさーん。

女、ドアのところまで来て、ドアノブを握る。

スタジオの扉は開かない。

なんか建てつけ悪いのよね、ここ。

扉をがちやがちやさせて、

またロックしたのね。……わかんない。その、ドア閉めると必ずロックしちゃう癖。何かあるんじゃない、潜在意識に。突起物があ

ると押したくなるっていう……。

女、扉から離れ、机に戻る。

……なんか臭いわよ。オオタキさん、また開けっ放しで入ってんじゃない、トイレ？ 一人暮らしの人には多いみたいだけど、そういう人。男も女も。

受話器をあげかけて、

受信専用だ……。

女、目覚し時計を持ち上げてキスすると。今度は隅にあるピンク電話のところへ行って十円玉を入れる。

ダイヤルを回しながら、

……（電話に）もしもし、ヒロコです。留守電、聞くと思っ  
て。……少し遅くなります。写真屋さん休みで、しようがないんで  
自分で撮ります。フィルムで渡してよかったんですね。いいの選  
んでください。それじゃ。（電話切る）

（ブースに）まだ入ってんの？ （トイレから、の意）

……ミヤタさんよ。

今度、テレビの関係者に会わせてくれるって。

そういう関係の仕事もあるんじゃない。アドバイスなんか、くれるし。

膝を合わせて喋らないといい声出ないよ、なんて。

いいじゃない、年下だって。……なんか肌が合うのよ、うん、痒いところに手が届くっていうか。……へんなこと想像しないでよ。

電話が鳴る。

女、出て、

はい、いずみスタジオです。

え……。

盗聴電話サービス。なんですか、それ。

……放送スタジオなんだから電波が出てるの、当たり前でしょ。という電波。

じゃあここで話してること、全部筒抜け？

ほんとに？

曲が終わりそうなテープが気になる。

ちよつと待ってよ。

女、曲の終わったテープを止め、マイクのスイッチを押す。

わざとマイクの前で煎餅を齧る。

タンタンタケダの鉄火焼き（歌う）……。

火力の強い備長炭びんちやうたんで焼き上げたこだわりの逸品……。

タケダ製菓の鉄火焼き。

おせんべい三枚で御飯一膳分のエネルギー。

『地球最終放送』はタケダ製菓の鉄火焼きの提供でお送りして  
います。

サン  
プレー  
音響操作盤のスイッチを押す。

……（懸命に噛み砕きつつ）今、不思議な電話が掛かっています。

盗聴電話サシビスという会社だそうですが、強力な電波探知器を  
積んでパトロール、盗聴されているおウチを見つけては、発信器外  
してお礼をもらうって商売なんだって。

突然電話がかかってきて、「盗聴電話サービスです。あなたの家  
は盗聴されています」、……なんか、押し売りみたいよね。

（電話の向こうに）いくら取るわけですか、盗聴器見つけるには。  
モノによる。……見つからなかったら？

基本手数料は取る。

じゃあ「盗聴されてる」って脅せば、捜すふりだけで商売できる  
じゃない。

どんな人がするわけ、盗聴。愉快犯？

誰かが盗聴器仕掛けたら、あちこちからマニアが聴きに集まって  
くる。

被害者続出で社会問題……。

例えば？

……（聞きながら）面白半分でテレホン・セックスした女子高生の  
Q子さん。たまたまそれを盗聴されて、テープを買えって言われた  
んだって。そんなお金ないって言ったら、カラダで払えってことに  
なって、あとは転落の人生。

あなたが犯人じゃないの。

自分で仕掛けて自分で外して、脅迫までできるんだから、ぼろい  
商売よね。

……（電話が）切れてしまいました。

……盗聴器発見するのもいいけど「今かかってきたのは押し売  
りセールスだ」って教えてくれる電話も、發明してもらいたいよ  
ね。

私もこのお仕事始めてから、へんな手紙とか電話、くるんです。

「あんたのことは何もかも知ってる」、「こんなところにいたのか」、  
「俺がその声を忘れるはずないだろう」。

そんなにそっくりさんがいるのかなあ、声に。

……いるんですよ、たぶん。

だからテレホン・セックス好きの女子高生のQ子さんも、知らん  
ぶり通せばよかったのよ。（歌う）私はやってない……。

……ええ、そういうヤングの悩みごと相談に乗りながら、思い出  
のリクエストにお応えしてきたのは、毎週月曜のこの時間帯、「ヤ  
ング・ステーション」。惜しまれながら先週、ついに最終回を迎え  
てしまいました。

ということは、こちら、いずみスタジオからFMネットを通して  
お送りしているローカル番組は、いよいよこの『地球最終放送』だ  
け。当スタジオは今現在、……私、オサダヒロコが独占してるわけ  
です。

女、マイクのスイッチを動かし、ワイヤレスのカフス型マイクに切  
り替え、自分の襟元に装着すると机から離れる。

新米の私だけがなぜこの局に残ったか。その謎にお答えしまし  
う。

安いです。

この局のギャラは驚くほど安い。

だから、ラジオに青春を託し、汗と涙と涎をマイクに染み込ませ  
た皆さんは、いずれ新天地を求めます。

世を忍ぶ仮の姿のOL生活を今もってながながと続けております  
私だけが売れ残っていくのは至極当然、そう言っても差支えないで  
しょう。

では、平凡なOLにすぎなかったオサダヒロコがなぜ、DJ稼  
業という夜の顔を持つに至ったか。

……オサダ自身とて、まさかこんなふうに入様に向かって話すよ  
うになるとは、夢にも思いませんでした。

ちよつとした人生上の変化が……、

月並みながら別れのドラマがありました。

別れといっても、オサダはまだバツゼロです。

ま、とにかく十年くらい一緒だった男がいなくなると、暇で暇で  
しょうがない。

そんなふらふら日曜日、駅前の文化センターで、なんと、あの宇  
宙からの侵略SF映画の金字塔、『盗まれた街』こと、ドン・シーゲ  
ル監督のオリジナル版『ボディ・スナッチャー』を密かに見ている  
一団に遭遇した。

その怪しげな会を主宰していたのは、懐かしの映画を定期的の上  
映するサークル。

皆さんとお茶したりお酒飲んだりしながら、こんな映画あったよね、あの映画知ってる？ って……、喋り出したら止まんない。それまでの十年分を一日で喋っちゃったんじゃないかしら。

そこに、ラジオの編成をやっていると称するデブだけど少年の瞳を持つ三十男がいた。それがミスター・オオタキ。このスタジオのボスだったと、まあこういう具合にとんとん拍子にいくことだったまにはあるんだ悪いか。

私はいったい何を威張っているのでしょうか。

威張っている。

この私が？

テープのスイッチに手が掛かる、

音楽。

……それは私じゃないわ。

だって、私かエミリーにそんなことをすると思いますか。

交通事故？ ……私、あの晩、<sup>ビーチ</sup>湾岸になんか行ってません。それにもう何年もハンドルを握ったことさえないんです。左手が腱鞘炎になって……。え、キャンベル先生の診断書では完治している？

あの人よ。やっぱりあの人なんだわ。

……私にそっくりな人が、私の名を騙ってしたことです。

お宅の店で総額2千ドルの万引きをしたのも。

シェパードさんの用意した土地の売買契約書にサインしたのも。

銀行から1万ドルの融資を受けたのも。

よく調べてください。

何度か見掛けたんです。私そっくりに変装した人……。



病院。

私ですか。

私を病院に入れるって……  
放して。

女、スタンダーの間から取り出したフラフープをハンドルがわりに、クルマの運転をはじめる。

スピードが上がる。

意志に反して痙攣する左手でカーチェイス。

曲がりきれず何かに突っ込む、というつもりでフラフープを投げた。

……あなた、助けて。(這い出てくるつもり)

私は無事よ。ヘインズのコンバーチブルはスクラップになったけど。

クリス。ママよ。……わからないの。ママが。え？ (誰かを発見した)

……その人は違うわ。

その人はママじゃない。

来ないで。

女、左半身全体に痙攣がひろがっている。

……この町に引っ越してきた三年前には気づかなかった。

(次第に目を閉じ) スコットの浮気に苦しんだ私に自閉症性痙攣の症状が出はじめ、過ちに気づいたスコットが一からやり直そうと決

意してくれたときには、この町はどこにでもある西部の田舎町だった……。

自分の左手が踊り、奇声を発したような気がして、失神……。  
やがて目覚め、

ここはどこ……。

懐かしい薫の匂い……。

夢(だった)……、よかった。

誰……。 (発見)

あなた……。 (相手をとらえ)

あなたが私の偽者。

…… (別人として) 偽者？ 私が？

来ないで！

…… (別人として) 落ち着きなさい。

私の声色使うの、やめて。

…… (別人として) そんなキンキン声じゃないわ、私。

どうして。私と同じ顔……。

…… (別人として) 同じ顔？ あなたの目はこんなふうに光るの。

閃光。

…… (別人として) 怖がることないのよ。あなたが楽になるように、注射してあげるだけなんだから。

さわらないで！ (抗う拍子に何かを発見する) クリス……、スコット……。この大きなジャガイモから生えてきているのは……

…… (別人として) あなたこそさわらないで。二人はまだ完成していないの。

化け物！

……（別人として）あなたの家族じゃないの。

助けて！（よろけてまた何かを発見する。奥行きのある空間を見て）

私が、私がこんなに大勢……。ジャガイモ畑じゆうに、私が生えてきている……。！

……（別人として）光栄に思っていると思うわ。あなたたち家族はこの惑星の言語生物のプロトタイプとして選ばれた。

どういうこと。

……（別人として）たくさんつくるのよ。あなたたち三人を。この惑星にはデモクラシーという信仰があるでしょ。言語生物の過半数以上を占めれば、私たちはこの惑星を動かす権利を公正に得ることができる。ひとり10億体。ぜんぶで30億もあれば、選挙に勝てるでしょう。

やめてーっ。

……（別人として）何もしないわよ。あなたはそのまま生きていけばいいの。私たちの一人として。いいえ、10億の私たち自身として。

音楽。

走り回り、自分自身の幻影から逃げ惑う女。

やがて金縛りに遭ったように硬直する。

どこからか聴こえる放送のDJの声……。

声の主は彼女自身である。

**放送**

「マルクスは言った。人間にはあらゆる職業、あらゆる人生を遍歴したいという欲望がある。もしも別な人間に生まれ変わると

したら、あなたは誰を選択する？ どの時代、どの人生を選ぶ？  
だが人生が一度きりだとしたら、……チェンジするしかない。自分  
自身の手で。……人生はたたかいだ」

女、懸命にあがいて、金縛りを解く。

閃光と共に番組のはじまりを告げる効果音。

女、ジャングルジムに近づくと、まわしはじめる。

**放送** 「フィルムは回る。地球も回る。とっておきの映画を、お気  
に入りのレコードみたいに回してみよう。……独りぼっちの日曜の  
夜。恋人に会えない、映画館にも行けないハーフ・ハート諸君。映  
画の恋人は、わたくし、チャーリー斉藤。……あなたの心の映画  
館、『フィルム・ジューク・ボックス』」。

チャーリー……。

**放送** 「最初にクリップしたのは、とっておきの一枚、1955年  
のアメリカ映画、『クローン人間来襲』。……クローン人間というコ  
トバ、実は映画の中では使われていない。映画の原題は、『ザ・レ  
デイス・ウォー』。直訳すれば『たたかう女』。レッドページの真っ  
最中につくられたため、背景には共産主義への恐怖、無表情で同じ  
顔に見えるわれわれ東アジア人に感じる不気味さという、当時のア  
メリカンの感情が込められている。彼らから見れば。私もあなたも  
立派なクローン。……オリジナルがどちらかは、神のみぞ知る」

女、椅子に座り、回して遊ぶ。

……ええ、ただいま流れておりました、妙に威張ってるDJは、私が十代の頃ファンだった『フィルム・ジューク・ボックス』のパーソナリティー、チャーリー斉藤さんをお手本にして吹き込んだデモテープです。これでスポンサーの審査、受かったんです。

チャーリーの番組は普通の子ならぐっすりの日曜深夜零時スタート。聴かずに安眠してれば、もう三センチくらい背が伸びたかもしれない。

考えてみると。映画館と深夜放送って、似てるのよね。どっちもたいてい、暗いところで一人。

……フィルムは回る。地球も回る。私がくるくる回る物が好きなのって、チャーリーさんのせいでーす。

電話が鳴る。

ええ、音楽いきましよう。B級映画に最も貢献した作曲家といえ  
ば、この人。エンニオ・モリコーネ。『家庭教師』

女、テープのスイッチか入れる。

電話に出る。

……はい。

まだ生きてたの。

だから、ミタライ先生はいないの。

聴いてないの。番組。

今はラジオがない？

What can I do for you?

なに。

この町にはもう誰もいない？

……この町にはもう、生きている人同は、私以外には一人もいない。  
い。

……誰も電話に出ないってだけでしょ。

みんなどこか行ってるとか……、もう寝ちやったとか？

……(溜め息) ビョーキ。

……ちよつと。そんなつもりで言ったんじゃないわよ。

待ちなさい。

女、先程のハガキの一枚を手にとる。

いい。私、今、自閉症治療のボーダーライン・スケールっていうの持ってるから、それで確かめてみるわ。あなたがほんとにビョーキかどうか。

次の項目のうち幾つ自分に該当するか、正直に言うのよ。

- 1、一人でいるのが好きだと人に言ったことがある。
- 2、私は特定の人と仲よくなりすぎることを恐れている。
- 3、新しいことをはじめるのが怖い。
- 4、いつも誰かに聞き耳を立てられているような気がする。
- 5、私がないほうがみんなうまくやっっていくだろうと思う。
- 6、私のまわりには何か壁があるように思う。
- 7、実際に起きたことと想像したことの区別がよくわからない。
- 8、あまりその気にならない人と性的関係を結ぶことがある。
- 9、広い場所に出ていくのが怖い。

10、やってはいけないとわかっていることをしてしまいそうな気がする。

……幾つだった。

正直に。

……（数が）私と同じ。

うん。大丈夫。そう書いてあるから。

安心して。あなたビョーキじゃないのよ。ちよつと気持ちが悪いだだけだからね。

……え。

やっぱり数が違ってたって？

やり直しは駄目よ。

ちよつと。

電話が切れたらしい。

女、受話器を置く。

……4、いつも誰かに聞き耳を立てられているような気がする。盗聴してる人、聴いてますかあ……。

蠅の飛び交う音。

どうやら彼女には、指を一本一本延ばす癖がある……。

……ザ・フライ。（追って）なんか大きいみたい。

女、周囲の臭いを嗅ぎつつ、蠅を追って歩く。

……スタジオは精密器機が多いですから、あんまり日用品を持ち込まないでください。

とくに食べ物に困ります。他のパーソナリティから苦情がきてるんです、においが残ってて集中できないって。いいですか。ここはあなたの部屋じゃないんですよ……。

はいはいわかりました。

……ガス漏れ？

都市ガスじゃ人間、死なないのよね。……でも窒息死の線は残ってる。

(目覚し時計を手にする) ただいまより、2時ちょうどをお知らせ致します……。ピッピッポーン……。

時計ってさ、なんか捨てにくいじゃない。たまってたのよ幾つか、使えないやつ。だけど、ぜんぶ捨てちゃった。これもらったから。ミヤタさんに。(それを言いたかったのだ)

(ミヤタとの関係を) 隠してたわけじゃないのよ。

(時計を耳に当て音を聴いている) 時間は使わない限り節約できない……。

女、ドアの近くまで来ていて、ドアノブを回すが、やはり開かない。

……どうしてこのドア、外からロックするようになってんの。

そもそも今日、来てたの、オオタキさん……。

そうよ。電源入れるところから、ぜんぶ預けちゃって……。ひどいんじゃない。

けっこう傷ついてんのよ。廊下のピンク電話、スタジオに持ち込んで、他のは外線かけられないようにしてるし。……そんなにして



ないわよ、私用電話。

……ついだから言っとくけどオオタキさん、いい歳の女つかまえて「お嬢さん」はやめてね。確かにあんたが童顔だから「おぼっちゃまくん」て呼んだことあったけど……。

女、ピンク電話に近づいて受話器をあげ、財布の中を探っている。

硬貨の中に十円玉がないらしい。

諦めて受話器を置く。

ハエの飛び交う音。次第に高鳴って……、

女、音楽のポリウムを下げ、マイクに向かって、

臨時ニュースを申し上げます。私、オサダヒロコは閉じ込められてしまいました……。

電話も通じません。外界との交通は一切遮断されてしまいました。救援隊の派遣は、まだ確認されておりません。

水も食料も欠乏しています。

バッグからあれこれ取り出して並べながら、

確認されているのは、お気に入りカフェの手作りクッキー三枚……。一週間くらい前のヨーグルト……（駄目だと思う）。ガム。オオタキさんがくれた。あの人知らないのよね、私、ガムに関しては、銘柄決まってるんです。

（嗅ぎつつ立つ）やはり異臭が感知されております。

女、あちこちを巡り、臭いのもとを探る。

動かした机の裏側には夥しい衣類、雑貨、日用品の数々が見える……。

そう、まるで彼女がこの部屋に住みついていたかのような……。

女、引き戸を開けた電子レンジ収納のワゴンの棚の中に、蓋のあいた梅酒瓶が倒れているのを発見する。

これこれ……。 (傾けて液体分が少なくなっているのを確認、実を取り出して見つめる) 私を食べてちょうだい……。 (齧る) けっこう (アルコールが) 効くのよね。

女、ジャングルジムに乗って、動かしはじめる。

番組として成立していたはずの語りが、少しずつ怪しくなっていく。

宇宙船の中に閉じ込められて酸素がなくなっていくのを、ただ待つだけって映画あったわ。……でもいいわよ、宇宙船からは地球が見えるんだし。

酸素が欠乏すると少しずつ脳細胞が破壊されるの。

(息を吸い込んで、停める) エクスタシーとは、その瞬間の、何万かの脳細胞の死……。

ジャングルジムから降り、煙草を吸う。

吸うわよ。最後の一本。……これで窒息死する時刻が早まった。たぶん8分から9分。

(ブースとの境界のガラスを覗いて) ガラス割って出れば、なんとか

なるかな？ 撮影用のガラスって丸い形に割れて、危なくないのよ。

(ソファに寝そべり) 冬眠しよう。

女、暫くそのまま動かない。

急にがばっと身を起こす。

わかった……、(機械を手で触って) ワイヤレスの電波だ。

ワイヤレスマイクの周波数に合わせたら、盗み聴きできるのよ。

……(マイクを向いて) 皆さん、わざと番組を中断します。

女、調整卓のスイッチを切る。

ワイヤレスマイクを外して、暫く、黙ったまま、眺めている。

これでこの放送はもう、局のアンテナからは出ていません。

盗聴してる人には、聴こえてるわよね。

電話が鳴る。

(受話器を取る。暫く後) ……どちらさまですか？ (悪戯電話相手

の、意図的な慇懃さで) あいにくですが、主人は出張中ですので、おりません……。どちらさま……。

……(探りを入れる) 盗聴サービスの人？ まだ何か用。

……ふふ。(笑って)

自分で盗聴器つけたっていうんでしよう。

淋しい女がよくやるって？

馬鹿にしないでよ。覗き魔。

受話器を叩きつける。

……ワイヤレスの電源も切るわ。(スイッチを操作する) これでどう？

これで完璧。私の声を聞いている人はもう、この地上に一人もいない。

声を出さず、口だけを動かしはじめ。

(口だけで声は出さず) だけど。ねえ。……それが淋しい？

電話が鳴る。

女、無視する。

さらに暫く、口だけをばくばく動かしつつづけている。

そして、スタンダーから何点かの衣裳を抜きとり、後ろ向きになつて着替える。

やがて写真機を取り出し、三脚を立て、セッティングを始める。

……さあ。写真写真。とにかく写真撮るわ。

テレビなんか、ただニコニコしてればいいんだから。

……三分間写真も、好きなんだけど。失敗するから。撮りなおしでけっこう(お金が)かかるのよ、カラーだと。

どんなの。テレビ用の顔って。

(御守りのつもりなのか、目覚まし時計を持ち) いい声はいい顔

で。……ミヤタさん、いいこと言うでしょ。

女、カメラの方角を向いて……。

ブースとの境目のガラスに映った自分自身を見ている。

セルフシャッターとストロボが連鎖……。

ワンシャッターごとに表情を変えていくが、やがて……、

えっ、この人なの。写真と違う……。 (そういう反応をする人のことを描写する)

(撮影を続け) この顔じゃない。この顔じゃない。この顔じゃない……。

犯人みたいね。(横を向く) 犯人は横からも撮る。

…… (急に軍人のような態度になる) おまえがその気なら、犯罪者としての人生をちやらにしてやってもいい。

どうすりゃいいのさ。

……我々の計画に従え。

危ねえ仕事だろ。……どうせ終わったら消されるんだ。

……消しはしない。もう少し控えめな面に整形して、解放してやる。

撮影は終わる。

女、目覚し時計のベルを鳴らす。

マリア。決心するなら今だ。あのベルが鳴り終わったら、法廷は予定通り開かれる。

断ったら。

……おまえは絞首台の上で、泳げるほどの汗をかくことになるだろう。

……（笑う）

……その男は記憶を失っている。そして我々も、彼の正体を掴んではない。おまえは愛人を装い、情報を聞き出すんだ。……ここには彼が女の部屋に残した一切合切が揃えてある。すぐに掛かってくれ。

女、日覚まし時計のベルを止める。

やがて女、回転椅子を男（座っている）に見立て、話しかける。

カルロス。

私よ。カルメン。また会えてよかった。……少しは何か言っ

熊の親切。大きなお世話？ ……ロシアでは「醜女の深情け」のことを「熊の親切」っていうんだって？ あなたにはロシアのお友達が大勢いたんでしょう。

心配しないで。私がついてるから。

お願い。順を追って考えてみて。あなたがどうしてあんなことに巻き込まれたのか。

……お友達のことを思い出したら、すぐにここから出してもらえるのよ。

女、回転椅子の背凭れに後ろから抱き着いて、くるくる回る。

ねえ。ほんとうに私のこと、忘れちゃった？

……待って。秘密のことは喋らないで。

私たち、盗聴されてるかもしれないのよ。

女、電話器やコンセント。電気機器の裏側などを調べはじめる。

カルロス、あなたは思い出さたくないでしょうけど、私ははすっぱな女よ。酒場の歌手で踊り子。……ええ、裸で踊ってたの。

私は人前に出て、大勢の人を喜ばせる。それが幸せ。それが自分を貶めることだなんて、少しも思わない。……ええ、そうよ。手当おとしたり次第に男をくわえ込んで、貢がせていた。

……ほら、大丈夫（何も仕掛けられていない）。

カルロス。悪いのは私なの。やばい連中と関係ができて、当局にマークされた。

私のせいで、あなたが革命のために努力してきたことが筒抜けになった。

でも、許してくれると思ってた。

……さあ、立って。今日はお祭りの日。

（音楽が）聞こえるでしょ。ねえ、踊ってみない。昔みたいに。

……（椅子の前に靴を置き）あなたの靴。

履いてみてよ。靴紐の通し方まで忘れた？

……（ゆっくりと椅子に座り、靴を履いて立ち、初めて男の役になる）カ  
ルメン。

やつと口をきいてくれたわね。

（男として）悪かった。なかなか自信が持てなくて。だけどその、指を一本一木のばす癖は、君だ。

そんな癖を持った女は大勢いるわ。踊り子ならなおさら。

（男として）……何をいうんだ。

……やっぱり私はあなたに相応しい女じゃない。

(男として) そうじゃない。……思い出せないことが多かったが、今は理解できる。君の魅力を知っていた、記憶を失う前の自分に、俺は驚いている。

ごめんなさいカルロス。私、嘘ついていたの。……難しいことは私にはわからない。母さんはすぐ死んだし、私をいつも「くそむすめ」って呼んでいた父さんは五歳のとき殺された。私、父さんが死ぬまでてっきりその「くそむすめ」ってというのが自分の名前だと思ってた。私は、自分が「くそむすめ」でなくなるのに精一杯で、世の中のこと考えてる余裕なんてなかったの。でもわかる。この国は何かが狂ってる。あなたがしようとしていることは、きっと正しいわ。

(男として) カルメン……。

女、回転校子の背凭れを抱き締める。

情熱の舞踏。官能のゆらぎの中、椅子と共にひと回りする……。

静寂……、密かに蠅の音が忍び寄る……、

革命軍のアントニオって人のこと、知ってる。

(男として) ……いや。

そう……。

(男として) アントニオの名前を、どこで聞いた。……おまえには話していいはずだ。

……カルロス。

(男として) 俺はカルロスじゃない。アントニオだ。

……(軍人として) よくやったマリア。あいつがおまえと乳繰り



あっているあいだに、蜂起した革命軍は鎮圧された。もうあの男に用はない。おまえは自由だ。

女、急に週刊誌で筆筒を叩く。

蠅が絶命するような音。

……（軍人として苦しげに）何をするマリア。

逃げて。お願いだから逃げて、カルロス。

別なスイッチを押すと、銃声。

……カルロス。私を置いていけば、あなたは助かったのに。

（男として）いいんだ。

言わなくちゃいけないことがあるの。私、本当はあなたの恋人じゃなくて……。

（男として）言うな。

……カルロス。

（男として）カルメン。おまえはカルメン。俺はカルロス。俺たちふたりは、そのままでもいい……。

機銃掃射の音……。

ストロボが激しく点滅……。

音楽、高まって……。

ええ、お届けしました映画は、スペイン映画『愛欲の部屋』。原題は『ムヘール・デ・ルチャール』、直訳するとまたまた『たたかう女』

でした。

情熱的というか、あつくるしいというか。ラブシーンが凄いですよね。私がこの映画を観たのは中学のときでしたが、喉がカラカラになっちゃって。「接吻」という字幕だけでドキドキして、「結ばれる」とっていうのはどういふことなんだろうと考えると夜も眠れなかつた頃でしょう。……「女は声で、男はまなざしで、愛を交わしあう」。

女、写真機を抱き締める……。

電話が鳴る。

女、出て、暫く後、

……天国からじゃないの？

なに。……もう人類は滅亡している？

……私もそんな気がしてるわ。

(笑つて) 私以外に生き残った唯一の人間が、よりによって、あなた？

……本当のこと教えてあげるわ。ここにあったスタジオは、もうなくなるの。今日が本当の最終回。……放送時間は終わったから、もう電波も発信されてない。見捨てられたスタジオに、忘れられた女が置いてけぼり、ただそれだけ。

声しか知らないどうしが話してる。名前も知らないどうしが寝るより、ましかもね。

女、微かに笑う。

受話器を置く。

散らかった床の上に落ちているハガキに目をやり……。

このハガキ……。オオタキさんからじゃない。

……（読む）親愛なるお嬢さん。私が一足先に転職したことをお許し願いたい。君は一人でも、最終回を無事にこなしているだろうと思う。

工事は確実に始まるので、番組が終了し次第、速やかに引越すように。冷たいようだけど、君がスタジオに住みつくことを黙認した私の責任もあるので。

転職先で、テレビの人に会う機会があったので、調べてもらった。あの局の関連会社に、ミヤタという男はいない。君が冷静な対応をしていることを願う。彼が、君の逃げ出してきた部屋に仕掛けられた盗聴器を聴いていた、君の秘密を知りながら近づいてきた、あの愚劣な男たちの一員でないという保証はない。……くれぐれも注意するように。

その拍子に鳴りはじめる、けたたましい時計のベルの音。

女、時計を手に取り、見つめて、

……Wake up! Wake up! Wake up!

女、裏蓋をあけて、中をよく見る。

ボールペンを突っ込み、黒い長方形の小さな部品をひっぱり出す。

……これが今度の放送局。ラジオ・ミヤタ。

ええ、よおくわかるわよ。恋人の部屋に忍び込んで、日記を盗み

読みしたくなる気持ち。

女、暫く眺めた後、中に繋がったコードを引きちぎり、その部品を電子レンジに入れ、タイマーを掛け、スイッチを押す。  
ジャングルジムの、高いところに登っていきながら、

実況中継を続けます……。

映画は回る。私も回る。回り続けるだけ。……いつか見たファーストシーン。……飽き飽きしてるのを隠して迎えるクライマックス。うんざりするラストシーン。……まだ観るの。まだ続けなきゃだめ？ チャーリー斉藤さん。紹介してよ。本当のラストシーン。

女を乗せたジャングルジム、くるくる回る……。

電子レンジが火を噴く。

同時に、停電。

静寂……。

微かに、青い光……。

女、ゆっくりとブースのほうを覗いて、

誰、そこにいるのは。今はそっちの方が明るいわ。

……月の光。

(見上げて) この一回りの間に、空も回っていく。

まわれまわれ……。

さよなら重力……、信用できるのは、遠心力だけ。

ルーレットみたいに、どっちに向いて停まるかわからないけど。

夜で……、私は一人だった。

映画の一場面なのか、本当にあったことか、思い出せないけど……。

こうして回ってて、すっごく気持ちよくなってきたのよね。子供のくせに。そう……、そういう、あれ……。私自身が、まるでここにいないみたいなの……。

回る空を見ながら……。しがみついて……。

(少し醒めて) ひとりぼっちで何してるの、私……。母さんが死んだのと同じ歳だったのに……。

女、静かに堪えて、

……あなた。

そこで聴いてる、あなた。

あなたに言うてるのよ。

まだ聴いてる？

聴いてくれる？

聴いてるんでしょ？

……好きにして。

好きにしていいのよ。

私もあなたに、とことん付き合っただけあげる。

だけど、いい……。

スイッチを切ったら私から逃げられるなんて、甘い考えは捨ててね。

これからあなたの耳に入る音は、ぜんぶ私の番組……。

私の放送を最後まで聴くなら、覚悟を決めてちょうだい。

電話が鳴るが、女は出ようとはしない。

ジャングルジムの回転が、自然に止まる。

電話、まだ鳴っている。

女、やっと、ジャングルジムを降りて、電話に出る。

暫く後、

……フィルム・ジューク・ボックス？

……何よ。真似しないでよ、チャーリーの。

え……。

しばらく黙っている。

……チャーリー。

はい……。

……わかりました。

はい……。

女、テープレコーダーを巻き戻しはじめる。

皆さんに伝えます……。

はい……。

ありがとうございました……。

女、電話を切る。

マイクの前に戻って、

……皆さん、『地球最終放送』は、地球最後の放送ではありませんでした。

続編があるんです。

原題は『ウーマン・イン・エンドレス・バトル』、直訳すれば「だたかいつづける女」……。日本では公開されていません。ビデオ販売も、テレビ放映も、ありませんでした。

しかし私はたった今、わが師・チャーリー斎藤から、そのストーリーを聞きました。

チャーリーは、この町の外れに、住んでいるそうです。

私の番組を、聴いてくれたそうです。

……いいですか、皆さん。

『地球最終放送』の続き、つまりヒロイン、メグ・クーリッジが地上で行う本当に本当の最終放送は、細菌汚染が蔓延し、核兵器が次々に爆発する中、シテイ・グリーンシヨアに辿り着いた彼女が語る、新たな恋と冒険です。

女、テープのスイッチを押す。

音楽。

……皆さん、放射能濃度は史上最高値を更新しつづけています。先程まで地上に叩きつけられていた、最後の涙のような激しい雨も、もうその痕跡を残していません。

大気圏が壊れ、太陽の熱射で地球上の生物は十時間以内に滅ぶで

しよう。

私たちは地球から脱出するために、金星調査隊の宇宙船の到着を待っています。

そしてヨーロッパに残っている二千人の、ロケットによる脱出は、間に合うでしょうか。

宇宙へ……。私たちは宇宙へ出発します。

スクリーンにあいた針のような穴から、その向こう側の、宇宙へ……。

カタカタカタ……。と映写機の回る音。

やがて空間に鋭利な亀裂が生じる。

その細い隙間から、強烈な光が差し込んでくる。

映写機の回る音。やがて途絶えて。

暗転。

甲高い口笛。

柔らかな音楽の中、浮かぶ女の姿。

女、初めてラインを通ったマイクで。スタッフを紹介し、自分自身も挨拶する。

音楽。

ふたたび暗転。

音楽の音量が下がり、客電が灯る。

ひと呼吸後に、今もどこかで続いている、女がDJを勤めるラジオ番組が、微かに場内を流れはじめる。